

平成29年度 能美市立粟生小学校 学校評価

重点目標 (めざす姿)	具体的方策	主担当	【評価指標】 ＜成果指標＞＜努力指標＞ ＜満足度指標＞	【評価の根拠】 達成度判断基準	取組状況	評価	学校関係者評価者 による意見	今後の改善策
1 組織的な 学校運営	【活気あふれる組織作り】 一人一人がビジョンを受けた目標を明確にして職務を遂行し研修を通して教師力を向上させる	教頭	＜努力指標＞ 教師一人一人が目標達成のため 具体的方策を設定し、実践する。	実践していた (教師アンケート) A: 100% B: 90%	教師アンケート: 89% 当初・中間面談や取組後の検証時に、目標達成の方策や遂行状況を確認したり、成果を評価したりできた。	B	・いじめや不登校の状況はどうか。 一現在、いじめは認知されていない。見えていないだけかもしれないので、今後も注意していく。不登校については、1名不登校がいたが、本児の転出によって0名となった。	具体的な取組を全職員で共通理解、共通実践し、結果を速やかに検証することにより、職務遂行能力の向上を進める。
	【取組の連携】 学力向上ロードマップを用い、PDCAサイクルを実働させる。	各主任	＜成果指標＞ 各部(学習指導・生徒指導・保健体育)だより等で、取組の結果を共通理解し、共通行動に取り組む。	実働していた (教師アンケート) A: 毎回できた(半数以上) B: ほぼできた(半数以上)	教師アンケート: 全員毎回できた 毎月のキーワードをもとに、各部で連携して具体的な取組を提起し、全職員で共通行動をとることができた。	A	一部の子が、一時期教室に入りにくくなり、相談室等ですぐすこもあつたが、現在は解消している。	今後も、児童の実態を踏まえつつ、PDCAサイクルを実働させていく。
	【安心・安全な学校作り】 危機管理の意識を高め、いじめのない安心・安全な学校づくりをする。	生徒指導	＜成果指標＞ 丁寧な児童観察・児童理解により、いじめ等児童の変化を敏感にとらえ、迅速に対応する。	組織的対応ができた (教師アンケート) A: 十分できた(半数以上) B: できた(100%)	教師アンケート: 全員十分できた 担任だけでなく、学校全体で児童を観察することにより、気になる児童への迅速な対応ができていた。	A		引き続き、「報・連・相」を徹底するだけでなく、支援シートやQ-Uテスタの結果などを生かした組織的、計画的な対応を継続していく。
2 知(学校大好き)	【授業改善】 主体的・対話的で学びで深い学びの実現をめざした授業を行う。	学習指導	＜努力指標＞ 学び合いのある道徳の授業をする。	実践していた (教師アンケート) A: 十分できた(半数以上) B: できた(100%)	教師アンケート: できた・十分できた あわせて100% 学び合いが深まるための発問作りや板書作り、教師の問い返しやゆさぶりが効果的な手立てであった。	B	・授業改善について、職員間で「学び合い」のイメージを共有し、他者評価も取り入れることではないかと。	授業の中での、学び合いのイメージを全職員が共通理解し、共通実践して行く必要がある。
	【基礎基本の定着】 計画的に帯タイムを活用し、基礎基本の定着を図る。	教務	＜成果指標＞ 学力向上プランにのっとり、計画的に実践し、定着を図る。	学期末テスト(漢・計) (全校の平均点) A: 95点以上 B: 85点以上	2学期末テスト: 漢字95.6点。 算数95点。 できるまで何度も取り組ませた結果、当該学年の漢字・計算力がついていた。	A	・本を読まない子に対しては、図書館へ行く回数を増やし、本を借りさせることが必要だ。	当該学年で身につけるべき基礎学力をつけてきた。今後も、帯タイムを利用して繰り返し学習を行い、定着を図っていく。
	【活用力の育成】 学校及び家庭での読書活動の推進と書く活動の充実を通して活用力の向上を図る。	学習指導	＜成果指標＞ さまざまな読書活動の取組を通して、児童に目標の冊数を達成させる。	目標貸し出し冊数達成率 (集計結果) A: 90%以上達成 B: 80%以上達成	集計結果: 72% 学校全体の貸し出し冊数は増えたが、各個人の冊数は目標に達しなかった。個人差が大きく読まない子への働きかけが課題として残った	C	・本を選ぶ力を高めることも大切だ。	家庭との連携を深め、週末読書などの取組を工夫し読書量の増大を図り、活用力の育成につなげる。
3 徳(友達大好き)	【道徳教育充実】 道徳の授業を中心に、礼儀正しい子、地域のよさに気付ける子の育成を図る。	学習指導	＜成果指標＞ 地域の教材や人材を生かした授業を実施する。	年間授業実践 (教師アンケート) A: 5回以上(半数以上) B: 3回以上	教師アンケート: 全学年5回以上 道徳、生活、総合、国語、社会、を中心に実施することができた。	A	・道徳の研究の成果はどうか。 一児童にとっては、学び合いにつながる「話す」機会や経験が増えたことがある。教師にとっては、学習指導要領を大切に、学年のシステムを明らかにしようとする態度が高まったことが挙げられる。	地域とのつながりを一層重視し、地域とかかわりながら、礼節ある児童の育成を図る。
	【自治・自主の精神の育成】 児童発信のスクールスタンダード(あおっこ9)の取組を通じ、自治・自主の精神の育成を図る。	生徒指導	＜成果指標＞ あおっこ9を理解し、守ろうとしている。	守ろうとしている (児童アンケート) A: 80%以上 B: 70%以上	児童アンケート: 88% あおっこ9を月目標に関連付けて示すことにより、あおっこ9を意識させることができていた。	A	・教師同士も評価し合い、教師も自己肯定感を高めることよい。	児童会活動を活性化し、児童の自主的な活動を引き出していく。
	【自己肯定感の高まり】 自己理解・他者理解・役割意識が持てる活動を通して、自己肯定感を高めていく。	生徒指導	＜成果指標＞ 教科・特別活動の中で、互いに評価し合い認め合える場面を設定する。	学級、学校が楽しい (児童アンケート) A: 80%以上 B: 70%以上	児童アンケート: 88% 学び合いのある授業や、活動後のふりかえり、異学年交流を利用しながら、日常的に認め合える場面づくりをしている。	A		他者に認められるような仕掛けを作り、注意されたり、否定的な思いを持ったりしないように、場やルール等の工夫を行う。教師は、褒めることができる結果になるための指導を継続する。
4 体(自分に挑戦)	【基本的生活習慣の確立】 児童自身に健康に関心をもたせ、基本的生活習慣の確立を図る。	保健体育	＜成果指標＞ 食に関する指導を計画的に行い、よりよい生活習慣の確立に努める児童の育成を図る。	取り組めた (ふりかえりアンケート) A: 80%以上 B: 70%以上	ふりかえりアンケート: 97% 食育クイズや栄養教諭による授業など健康に関心を持たせる取り組みを計画的に行うことができた。	A	・持久走大会のように、全校で縄跳び大会をしている学校もある。	次年度も重点項目を決め、児童自身に健康に関心をもたせ、基本的生活習慣の確立を図る。
	【体力向上】 1校1プランなど、体育授業や外遊びを工夫し、体力の向上を図る。	保健体育	＜成果指標＞ 鉄棒・縄跳び・持久走・水泳等の学年ごとの目標を達成させる。	達成率 (集計結果) A: 80%以上(半数以上) B: 70%以上(100%)	集計結果: 全て70%未満 体力向上の意欲向上のため、集会で鉄棒・縄跳びの技を演示。鉄棒・水泳・持久走・縄跳びカードを配布し、活用した。鉄棒・縄跳び指導の職員研修を行った。	C	・学校内の事故によるけがが減ったというのはいへんよことだ。	今年度の実践を生かし、学年目標の取組ができる工夫をし、意欲・体力の向上につながる取組を行う。
	【安全意識の向上】 交通安全・生活安全・災害安全の取組を充実し、子ども自身の安全意識を高める。	保健体育	＜成果指標＞ 登下校の安全や休み時間の遊び方、廊下歩行、避難訓練等の指導を徹底し、意識の向上を図る。	安全に気がつけた (児童アンケート) A: 100% B: 90%以上	児童アンケート: 92% 安全教育については、安全教室や避難訓練など計画的に行うと同時に日常的に見守り、声かけを行った。	B		全職員が取組内容を理解し、児童に各種活動の意義を理解させることで、安全を図る意識を高める。
5 家庭・地域との連携	【コミュニティ・スクールの充実】 連携を密にし、これまでの活動のより一層の充実を図る。	教頭	＜成果指標＞ 学校運営協議会を計画的に開催すると共に、CSディレクターとの連携を深めることで、学校支援の充実を図る。	学校支援の様子 (実施状況) A: 昨年度より増えた B: 昨年度同様	実施状況: 昨年度より増えた 新たな取組として、道徳の授業参加や茶道体験、クラブ活動参加などに加え、学校だよりの全戸回覧も行い、学校と地域の一体化が進んだ。	A	・見守り隊の組織化、連携のとりに方について検討しようとしているのはよい。人が増えるような協力をしたい。	CSディレクターとの連携を一層進め、地域住民とのつながりを深め、ふるさとを愛する子の育成を図る。
	【保護者連携】 保護者と児童の課題を共有し、よりよい家庭生活習慣の確立に努める。	教頭	＜成果指標＞ 保護者が、家庭学習の目標時間や各家庭でのメディアのルールを守るように働きかけている。	働きかけた (保護者アンケート) A: 80% B: 70%	保護者アンケート: メディア82% 学習89% 目標時間を家族と相談して決め、授業の中で時間を意識して宿題に取り組むことで、児童の時間に対する意識が高まった。	A	・職員は本当によくやっている。評価は、全部Aでもよいと思う。今後も、学校の負担にならないよう、学校の求めに応じた取組を進めていく。	取組の目的や内容を周知することはもちろん、取組後についても考察・検証を行った結果を保護者に伝え、課題の共有を図る。
	【PTA活動の活性化】 PTA活動の活性化を図ることで、学校の教育活動への理解と協力を得る。	教頭	＜満足度指標＞ 各専門委員会が目標を立て、それに合致した活動を計画的に行う。	協力できた (保護者アンケート) A: 80% B: 70%	保護者アンケート: 85% 各専門委員会がテーマに沿った活動を実践した。教職員も積極的に活動に協力することで、学校と保護者との相互理解や連携が深まっている。	A		事前周知を徹底し、参加しやすい環境づくりに努めることで、PTA活動の更なる活性化を図る。



